

		28京産大学室第1032号	
		平成	28 年 5 月 20 日
文部科学大臣 殿			
大学等の設置者 (名 称) (所在地) (代表者氏名)		学校法人 京都産業大学 京都府京都市北区上賀茂本山 学長 大城 光正 (記名押印又は署名)	
大学等名		京都産業大学	
平成28年度 国際化拠点整備事業費補助金 (スーパーグローバル大学等事業) 交付申請書			
国際化拠点整備事業費補助金交付要綱第4条第1項の規定により、次のとおり国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学等事業)の交付を申請します。			
プログラム名称・選定年度	スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(タイプB:特色型)		平成24年度
構想名称	京都産業大学 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援		
国庫補助金交付申請額	55,287,000 円		
補助事業の目的・内容等	別紙のとおり		
補助事業の完了予定日	平成29年3月31日		
事業推進担当者	氏名	所属・職名	
事業推進代表者		学長	
事業推進責任者		副学長	
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)	
		TEL	
		FAX	
		E-mail	

補助事業の目的・必要性

総論

本補助事業の目的は、「グローバル社会で活躍する理系産業人の育成」である。その人材像は、具体的に次の4つの要素からなる。第一に「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」、第二に「専門領域に関する確かな知識を持つ若者」、第三に「確かな語学力と異文化受容力を持つ若者」、第四に「自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者」である。

この人材像を育成するプログラムの構築するために、本取組では3つの柱からなる「理系産業人養成プログラム」を構築する。第一に「理系3学部と外国語学部の連携による異文化対話能力を育てるプログラム」、第二に「学内外の学びの融合によるチャレンジ精神を植えつけ、主体性を育てるプログラム」、第三に「確かな技術を持つローカル企業のグローバル化に貢献する志を育てるプログラム」である。

日本の企業行動を見ると、アジア諸国とのつながりが圧倒的に高まっている。本取組では、育成すべき人材像に掲げた「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」を育てるために、アジア諸国を対象とした産学協働教育に着目し、その開発に当たっては同窓会組織（海外支部含む）との連携を一層進めていく。グローバル化した世界の中で、日本が揺るぎない地位を維持していくためには、規模は小さくとも、確かな技術力を持った中小企業や幅広い民間レベルの国際交流が必要不可欠である。本取組は、本学の産学協働教育の蓄積を活かし、グローバル中堅層の拡充の必要性に応えることができる。

上記の目的を達成するための多様な教育プログラムを円滑に遂行していくためには、従来の教員と職員という二分法にとらわれない職域の開拓も重要な要素であり、本取組では、学士課程教育における教学体制を充実させるために、教育重点型教職員を育成することも視野に入れている。海外に目を向ければ、米国では、教員と職員の境界に位置する専門職が大学改革の推進力になっており、本取組は「日本型教育専門職」のパイロット・モデルとして位置付けることも可能である。

更に本取組は、理系産業人だけにとらわれず、人文、社会科学系へと展開させていくことで、多様な分野の産業人育成にも拡張できるモデルであり、大学全体のグローバル化にも貢献する事業である。この意味においては、本事業は京都産業大学のグローバル化推進事業の「スタートアップ事業」であり、補助期間終了後は、大学の経常経費で本事業を継続していく予定である。

本年度の具体的な事業内容

- ① eポートフォリオを用いて、グローバル・サイエンス・コース登録生に、入学時から卒業時までの学習成果物を保管し、学習成果の振り返りを促す。利用者のフィードバックをもとに、システムと運用方法の評価と改善を行う。
- ② 大学の経常費用により、理系3学部と外国語学部の学生を優先的に対象とした1人15万円を上限とした渡航費奨学金を運用し、さらに各種奨学金制度の活用によって留学費用の負担を軽減する。留学を促進するとともに、学部カリキュラムとの連動を図る。
- ③ 理系産業人の育成に関わる4学部の英語力到達目標達成にむけて、自発的に学習できる自学自習英語システムを昨年度に引き続き利用する。必修英語科目などと連携し、効果的な利用を促進する。
- ④ 理系学生のためのPBL授業について、グローバル・サイエンス・コースのイベントやセミナーの取組からのノウハウ等を蓄積し、学内への浸透・質向上を行う。
- ⑤ 理系企業を中心とした国内外ネットワークを構築する為、卒業生の就職先や確かな技術を持つグローバル企業について調査を行う。京都の経済界・同窓会組織を活用した理系インターンシップ科目を開講し、産学協働による理系専門知識の教育を行う。学生のキャリア形成を支援し、理系3学部のインターンシップ履修率の向上にむけた取組を行う。
- ⑥ 理系特別英語プログラム、グローバル・ジャパン・プログラム等、英語科目を開講する（27科目）。なお、英語科目による授業の実施については、グローバル化推進室に配置された教育職員を活用する。
- ⑦ 理系学部専門英語科目（10科目）に加えて、コンピュータ理工学部において専門科目（1科目）を英語利用に重点を置く内容として開講する。
- ⑧ グローバル・サイエンス・コースを対象とした短期・長期留学プログラムを追加開発する。新規プログラムについては、学部専門科目履修と留学の両立のための環境を整備し、大学院進学予定者向けの教育など学部のニーズに合致した教育プログラムの開発・調査を行う。
- ⑨ 理系3学部と外国語学部の学生対象の夏期集中科目「特別英語（英語サマーキャンプ）」を昨年に引き続き開講する。前年の実施の経験を踏まえて、外国語学部と理系3学部が連携し英語力向上と学生の意識向上を図るための施策を実施する。
- ⑩ グローバル・サイエンス・コースを対象として、キャリアパスを考察する動機付けのための、産学協働教育を核にした海外留学プログラム、「海外サイエンスキャンプ」科目を昨年に引き続き開講し、理系産業人の育成のための教育を米国西海岸で行う。また、新規にイギリスなどで、「海外サイエンスキャンプ」の発展版としてより専門的なプログラムを展開する。
- ⑪ グローバル・サイエンス・コースおよびイングリッシュ・キャリア専攻のホームページ等の広報を展開し、本学の取組を外部に発信する。
- ⑫ グローバル・サイエンス・コースを対象として、英語学習のセミナーを開催する。春休み期間等を利用して、正課教育との両立を図るとともに、「海外サイエンスキャンプ」等の留学プログラムに参加できない学生にも、集中的な英語学習の機会とする。
- ⑬ グローバル・サイエンス・コースを対象として、月1回程度を目標に定例勉強会を実施し、コース登録者のコミュニティ形成と主体的な学びへの意識づけを図る。

- ⑭ グローバル・サイエンス・コースを主な対象として、国内外の講師を招聘しグローバルな理系キャリアに関するセミナーを開催する。春休み期間等を利用して、正課教育との両立を図るとともに、「海外サイエンスキャンプ」等の留学プログラムに参加できない学生にも、グローバルな体験を供給する機会とする。
- ⑮ 平成28年4月に「サギタリウス館グローバルコモンズ」を開設する。その運用において、平成27年度に試行した英語ワークショップの成果を踏まえ、異文化交流アクティビティや授業と連携したワークショップ、学習支援員による個別学習支援を開始する。また、施設の全学的な利用促進と外国語学習習慣の定着に向けて、外国語（英語）によるアクティブラーニング・セミナー等の学内セミナーを実施し、学内の周知・広報活動を行う。開設後、利用者のニーズ等を踏まえて、教材・資料の選定・貸出等の運用方法を精査するとともに、授業との連携や正課外のワークショップにおけるモジュール開発について検討する。
- ⑯ 担当教員による履修計画相談時に、ポートフォリオを活用して指導する。まずは、初年次教育にかかるループリックについて企画、検討する。入学時にプレースメントテスト（TOEIC Bridge）を実施し、全入学生に関するデータの蓄積、およびデータに基づいた教育改善を行う。第2セメスター終了時と第4セメスター終了時にTOEIC IP のテストを実施し、入学時のプレースメントテスト（TOEIC Bridge）との比較により伸び率を確認する。また、授業内容の改善資料とする。履修要項、履修手続き書類等の英文化を進める。
- ⑰ これまでの英文化の取り組みを振り返り、平成25年度に発掘した学内英文化ニーズを例に取り、学内で対応する組織の在り方について検討する。SDの観点から、グローバル職員のロールモデルを作成し、効果的な活用方法について検討する。職員英語力向上のための研修会を、引き続き実施する。
- ⑱ 入学データと教学データを組み合わせたIRデータ分析や高大連携FD等のこれまでの本事業における成果を踏まえ、学内における各局局への引き継ぎ等、今後の展開を検討する。
- ⑲ FD/SDセミナーおよび外部評価委員会（個別ヒアリングを含めて実施方法について検討）を引き続き実施し、本学の教育の質向上を行う。平成27年度に収集したグローバル・サイエンス・コースの学習成果実感に関するデータについて、得られた結果と意味、意義を文書化する平成27年度の作成した事業成果リーフレットについて、成果報告会を実施する。平成28年度についても、引き続き学習成果実感に関するデータ（TOEICスコアを含む）を収集する。
- ⑳ 初年次科目を初め授業と連携したライティング・プレゼンテーションに関する学習支援を開始する。学習支援員による個別学習支援・ワークショップを実施する。英語自学自習システムのICTサポートの窓口を引き続き設置する。本学ですでに展開されている学習支援の総合的な窓口となり、他部署との共同イベント開催や、サギタリウス館グローバルコモンズとの連携を展開する。利用状況の実態調査を実施し、学習環境の改善を図る。学生スタッフによるアクティブラーニング型のイベントの企画・実施を支援し、学生が主体的に学ぶ機会の増加を促進する。雄飛館ラーニングコモンズにおいて学内の教員・職員向けのセミナーまたはワークショップを実施する。

本年度の補助事業実施計画

- ① 4月～3月 ポートフォリオの運用と改善
- ② 4月～3月 大学経常費による「渡航費奨学金」制度(4年目)の活用による留学の促進
- ③ 4月 自学自習英語（Eラーニング）システムの効果的利用の促進
- ④ 4月～3月 理系学生のためのPBL型授業拡充の検討
- ⑤ 4月～3月 国内外ネットワーク（理系企業を中心）の構築、理系インターンシップの開拓・拡充・実施
- ⑥ 4月 理系特別英語プログラム（7科目）、グローバル・ジャパン・プログラム（13科目）、全学共通教育における英語科目（7科目）の開講
- ⑦ 4月 理系学部専門英語科目の開講・拡充
- ⑧ 4月～3月 グローバル・サイエンス・コースのための短期・長期留学プログラムの開発・調査
- ⑨ 9月 外国語学部と理系3学部生対象の夏期集中科目「特別英語（英語サマーキャンプ）」の開講
- ⑩ 2月～3月 「海外サイエンスキャンプ」およびその発展版の開講・実施
- ⑪ 4月～3月 グローバル・サイエンス・コースおよびイングリッシュ・キャリア専攻のホームページ等における広報の実施
- ⑫ 2月 グローバル・サイエンス・コース英語インテンシブセミナーの実施
- ⑬ 10月～3月 グローバル・サイエンス・コース定例勉強会の実施
- ⑭ 3月 グローバル・サイエンス・コース・セミナーの実施
- ⑮ 4月～3月 サギタリウス館グローバルコモンズの開設および運用開始。グローバルコモンズにおける異文化交流アクティビティとワークショップ、学習支援の実施。グローバルコモンズパンフレット・利用案内の配布および外国語（英語）アクティブラーニング・セミナー等を通じ利用者のニーズを踏まえた教材・資料の選定・精査、モジュール開発の検討
- ⑯ 4月～3月 ポートフォリオを活用した履修計画相談の実施、履修計画相談に有用なループリックの企画・検討。入学生へのプレースメントテスト（TOEIC Bridge）の実施。1年次生と2年次生へのTOEIC試験（TOEIC IP）の実施。履修要項・履修手続き書類等の英文化の促進
- ⑰ 4月～3月 平成25年度に発掘した学内英文化ニーズへの組織的対応について検討。平成26年度までの調査・検討の成果をもとにグローバル職員のロールモデルを作成。職員英語力向上のための研修会の実施
- ⑱ 4月～3月 本事業成果を踏まえた入学の側面からみた部局横断の取組の今後の展開の検討
- ⑲ 4月～3月 FD/SDセミナーおよび外部評価委員会の実施。グローバル・サイエンス・コースの学習成果実感（平成27取得済データ）の文書化。事業成果報告会の実施。事業対象の4学部の3・4年次生を対象としたTOEIC-IPの実施
- ⑳ 4月～3月 学習支援員と初年次科目における授業連携の開始。英語自学自習システム支援の継続運用。ライティング・プレゼンテーションに関する個別学習支援とワークショップの実施。利用状況実態調査の実施。学生スタッフによるイベントの企画・開催の支援。他部署で展開されている学修支援との連携強化。雄飛館ラーニングコモンズの活用を通じたアクティブラーニングの全学的な展開の検討。学内教員・職員向けのセミナーまたはワークショップの開催